

平成26年度 指定管理者評価結果

所管課 健康福祉部 障害福祉課

1 施設の概要等

施設名	岐阜県立三光園
施設所在地	山県市大桑3606
指定管理者 (共同体構成員)	社会福祉法人岐阜県福祉事業団
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
主な施設	入所室、事務室、会議室、食堂・厨房、浴室、チャレンジルーム等

2 前年度の評価員会議の主な意見及び対応

前年度の評価員会議の意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者間のつながり、利用者と職員のつながりが希薄になっているようですが自治会組織の強化が必要と思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会定例会を3ヶ月に1回から毎月1回に増やして開催している。今までフロアミーティングでそれぞれ職員に訴えていたことで、自治会で解決できることは定例会で話し合うこととした。また、行事などの企画会議に出席する代表を自治会で選出し、会議の内容を定例会で報告するよう支援している。利用者間の積極的な話し合いには時間を要するが継続して支援する。
<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束に関して、利用者や家族に説明しているが、3原則の遵守と身体拘束による弊害を再度研修し、取り組みを考慮することを期待している。 ・重度化の中で、全員に身体拘束の同意書を取っている。身体拘束を安易に考えていないか。拘束しない安全確保を研究しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束は利用者安全のため」という意識を変えるために、また、身体拘束をしないで安全を確保する方法を学ぶために身体拘束に関する施設内研修を実施した。また、身体拘束検討委員会を毎月開催し、3原則に照らし合わせて一人ひとりの身体拘束の解除に向けて検討した。超低床ベッドの導入や利用者一人ひとりの状況を確認した上でベッド柵の解除などに取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・正規、非正規の割合が改善されていない。 ・拠点区分間繰入金の支出額は適正か。サービス向上に努めてはいるが、重度化する利用者の状況において、環境整備は適切なかどうか。費用は有効に使われたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正規、非正規の割合や繰入金の適正水準についての検討は今後とも法人全体で取り組む。また、利用者の快適な生活環境を整えるために改修や修繕を計画的に行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所等のニーズはもっとあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自立支援推進協議会、福祉サービス事業所連絡会、相談支援部会などに積極的に参

	<p>加して地域の障害福祉課や病院などのケースワーカーとも連絡を密にして短期入所等の利用の促進をアピールし、新規契約者6名を受入れレスパイト支援を行った。</p>
<p>・せっかくのコミュニティーバスの運行コースに組み込まれたのであるから外出の機会を増やすなど研究されたい。</p>	<p>・コミュニティーバスによる外出を計画しました。車椅子1台しか乗車できないことや時間や本数に課題があるが、まずは外出の部分的な交通手段として平成27年度外出計画に取り入れた。</p>
<p>・外出支援ボランティアなどのQOL向上のいっそうの取り組みが期待される。</p>	<p>・個人外出については付添ボランティアに依頼している。また、旅行、コンサート、買い物など利用者の多様な要望に対応していただいている。個人で外出される場合、ボランティアは利用者との信頼関係が必要であるため、ボランティアの開拓、三光園でのボランティアを積み重ねていただく課程での育成にも意識して取り組むことで、利用者のQOLの拡大に繋げた。</p>

3 平成26年度評価結果

<p>評価員会議 の評価・意見</p>	<p>【 評価結果 】</p>			
	<p>項目</p>		<p>平均点</p>	<p>評価</p>
	1	<p>管理基準の充足状況</p>	<p>3. 20</p>	<p>優</p>
	2	<p>設置目的の達成状況</p>	<p>3. 40</p>	<p>優</p>
	3	<p>公共性の確保の状況</p>	<p>3. 20</p>	<p>優</p>
	4	<p>経営状況</p>	<p>3. 20</p>	<p>優</p>
	5	<p>その他派生的効果等</p>	<p>3. 40</p>	<p>優</p>
	<p>総合評価</p>		<p>3. 28</p>	<p>優</p>
	<p>(評価方法：5名の評価員による1～4点の4段階評価) (努力が不足している ← 1 2 3 4 → よく努力している)</p>			
	<p>【 評価についての意見 】</p>			
<p>○管理基準の充足状況</p>				
<p>・利用者が安全に安心して生活ができるように、超低床ベッドの導入など利用者一人一人の状況に合わせて支援されている点が評価できる。</p>				
<p>・日課の見直しによる余暇活動の充実や、外出支援に力を入れるなど利用者のニーズに応える支援がなされている点が評価できる。</p>				
<p>・フロアミーティング、CS評価の分析結果や施設の課題の話し合いの会議・委員会などに、利用者が参加して意見を反映させていることは、施設の生活の主体は利用者であるという意識づけの面からも評価できる。</p>				

- ・高齢化・重度化に伴い、従来の日課や行事の組み立ての中に、利用者の生きがいや思いを、個別支援計画をはじめいろいろな場面にいかに反映させていくか、引き続き検討されたい。
- ・身体拘束など権利擁護については、介助技術や設備の改善などを引き続き研究し、更なる質の向上を図られたい。

○設置目的の達成状況

- ・施設入所の利用率が高い。また、地域で生活する障がい者の方々の支援として、短期入所や日中一時支援の受け入れで機能をはたしていることが評価できる。
- ・地域の障がい者（利用者）の発掘や、真に必要とする人がサービスを利用できているかどうか、また、地域での認知度は十分かどうか今一度検討されたい。

○公共性の確保の状況

- ・利用者の高齢化・重度化に対応した介護技術等の研修を実施するとともに、職員の会議出席に関しての意識づけをした取り組みが評価できる。
- ・BCP 計画に沿った防災訓練の実施や、危機管理対策に感染症対策なども取り入れている点が評価できる。
- ・身体拘束の解除に向けた職員の意識改革に取り組んでいる。自治会を毎月開催するなど、その強化に取り組み、利用者間、職員との繋がりが深まるよう努力している点が評価できる。
- ・大規模災害に備えた訓練のメニューを決定し、年数回、地域住民も含めた支援体制の確立と地域の災害時の拠点としての備えをしっかりと準備することを期待する。
- ・身体拘束や虐待に関しては体験演習により意識付けし、安全とは誰のためか、自分がされたらどうだったかなどのお話し合いを継続されたい。

○経営状況

- ・介護機器や介護用品を積極的に導入して、経営の効率化を図ろうと努めており、経営状況は概ね適正である。

○その他派生的効果等

- ・地域との結びつきを強めるよう努力し、近隣住民との良好な関係が構築されており、趣味活動の支援やボランティアによる活動もできている点が評価できる。
- ・ボランティアは他の施設のないいわゆる行事ボランティアだけではなく、外出ボランティアを養成して活動していることは評価できる。
- ・コミュニティバスを活用した外出支援など前年度評価結果に対する対応が具体的な行動として反映されている点が評価できる。
- ・地域交流の小学生や園児との交流、中学校職場体験はマンネリ化していないか。幼少時から、障がい者に対する差別をなくすという点の啓蒙活動に更に取り組まれることを期待する。

県の評価

・協定書に定めるサービス水準を満たし、適切に管理されている。